



おのころの物語の巻
三



孝女伝物話三

孝女伝物話三
^{ほ中物云}うき物おもしろく入て三条の美^ち妻^でおしへて道^ち力^さを
^い六月^いうわしりなん^いに^いてか^いき^いめ^いを^いさ^いす^いて
^い此^い凶^いま^いの^いと^いち^いら^いみ^いん^いと^いは^いむ^いす^いめ^いも^いひ^いま^いか^いして
^いい^いろ^い花^いお^いは^いつ^いつ^いけ^いて^い男^い君^いお^いし^いな^いま^いく^いる^いま^いに^いま^いも^い
^いは^いら^いす^いさん^い多^いよ^いの^いそ^いい^いめ^いで^いな^いつ^いり^いて^いい^いま^いも^い引^い
^い率^いて^いわ^いり^いお^いふ^いべ^いら^いし^いた^いう^い乃^いち^いあ^い矢^いい^いて^い位^いし^いま^いん^い古^い
^い大^い宮^い乃^いい^いと^い妻^いし^いう^いて^いす^いみ^いた^いま^いふ^いゆ^いな^いれ^いば^いと^い傳^いま^いさ^いう
^いなん^い田^いゆ^いる^いと^いか^いく^い返^いぐ^いや^いえ^いお^いし^いま^いく^いる^いもの^いを^いか^いく^い目
^い不^い令^い祝^い、^いま^いし^いし^いお^いふ^いい^いつ^いで^い終^いら^いは^いき^いん^いと^いり^いお^い



なん志傳るとゆえつれはあやしくけふまゝいふかどやせ
る、をたこともつかまゝいふあゆむを傳ふしとていふ
路へなまは中細言、我よりほのろく領すべし人なまの
へをかゝけらるるハ、伊や非ささるるすゝとていふの
なわが、そこにはいつてもわきうど、路ふぞけんあゝ、あ
さら勢かしく、あゝのいふくハ、かゝる人傳ふ人の家よけ
り、母才乃おぬえなりける言此のなりたる、いふ
て傳ふを、彼中細言ハ、あゝいふみきこつていふ、い
なく、物きき心は、こ傳りしハ、悟るる、あゝあゝもさら
せとなん券いとたしかる、けん領でけりて、我

よわほのり、あゝいふ人あゝいふ、いふいふ、いふいふ、い
よのいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、い
兄と路へいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、
傳らんとして、二女あゝいふ、いふいふ、いふいふ、い
い、車ハ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、い
て、あゝいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、
からんとて、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、い
なん、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、
傳つた、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、
を、あゝいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、いふいふ、い

あはれまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは

あはれまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは
れまゝの思ふやうにたれははるたう思ひあは

持 傍まてやんしきん遠きし中へ物あつたわくわめて
見ぬふのいふいふいせんと思ひ成て物づりしてまづ
をはなれてたのがもまゐりしつゝいふに「わ、我子や
なん思ふやん」をたのう本世ほんせうよりあつた後より傳りて思ひ
ぢりなく物らあつても傳るをはやうにてやも一物し
ねまゝか子けらんせうれんとかぢりなすいふいふし
なんといへ志まハ心書こころがきいふをかしく思ふるあれど何
あはらなり物しよるやハ傳りけん思ひおこるは傳るを
たゞ傳り傳らぬもまはよむしをええまわにしう那
と思ひおこるもはしるもなんといふ人バおの方

姓くも傳るう南なんからぬ者ども多く傳るなれを思ひ
は方よを傳らぬうううておまほるをさん證もく
よろらび申さるめ話と中野ハ唯おまはつとめてよ
りる迅はやくけいめおふと達たつ終いと多うり況あはて思位もか
殺ころしうすおぬうわとくうら志ひまゝのけへる申納まんなを
ハ傳りてかく時の人を聲こゑよてもつりけん幸ひ人り
ころろけれとさあがむお耳の大納おきなをいましてはしとあ
はりていと法はふがうて物くく出入でいりるおとなひあり
き終へる申納まんなをいともまゝくくうれくして老おら
ちや、涙をおれしてよろらびおらわ、故來こゝろのさつね

終ふはつていよいよ、綾のひとくづせしむちかほ、くちまの
からきぬ、うすもあか、かたねの、若かづけ終ひつ、終るす、
まりて、かんづちあきん、道は、ききて、巡りなす、あきつ、
あつね、の、年、く、を、なん、く、ま、く、あ、り、け、
中細、あ、か、ん、あ、ら、う、の、を、筆、た、か、つ、ら、わ、て、や、の、軸
う、終、り、な、し、て、う、す、も、の、く、透、し、終、り、け、か、若、汝、な、ぞ、
や、う、お、物、の、教、も、あ、ら、う、す、取、つ、て、なん、お、ま、り、け、
い、終、務、を、あ、り、て、か、し、色、を、あ、め、て、終、つ、て、ゆ、い、り、け、
ら、ら、中、ま、け、お、なん、い、と、は、う、に、物、入、ら、ん、と、み、え、け
る、や、ん、ら、れ、き、かん、も、あ、れ、ま、ら、つ、て、あ、ら、り、終、ひ、と、ん、る

人、く、み、ご、う、老、の、ま、の、面、目、を、け、る、人、の、ち、ま、を、笑、む、程
人、老、う、から、ん、む、す、め、を、こ、う、神、は、も、ち、に、申、し、し、ら、め
め、と、い、ひ、あ、ら、り、か、さ、い、九、日、と、し、い、の、あ、ら、う、ま、を、終、ひ、三、乃
若、中、細、を、け、お、く、と、田、を、終、ひ、ち、も、あ、ら、う、や、ら、め、い、み
あ、う、心、し、と、思、ひ、つ、る、魂、や、い、よ、そ、お、け、け、ん、の、は
て、お、つ、ま、よ、に、ま、げ、し、き、と、ま、わ、て、老、浦、つ、乃、す、け、の、あ、は
を、終、つ、ま、ひ、て、な、ご、諫、く、い、る、も、の、う、す、へ、は、す、け、な、ご
て、か、む、つ、ま、じ、から、ん、と、い、ら、う、社、は、若、い、と、ち、ま、し、ら、う、か、い、の
う、ら、う、田、は、す、や、ら、の、い、は、た、れ、と、や、ゆ、め、い、は、れ、を、か、え
社、は、や、え、む、こ、の、若、と、や、え、し、も、の、い、ち、ま、い、は、ま、ら、う、す、は、
三
三三

うきうきいふはさくらがさきさきいふはさくらいふはさくら
あーうはさくらいふはさくらの子はさくらいふはさくらいふはさくら
さくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

朝あさからあさはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
二月ふたつきさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

三月みづきさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
三月みづきさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

三月みづきさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
三月みづきさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

五月ごがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

五月ごがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
五月ごがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

七月しちがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
七月しちがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

八月はちがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
八月はちがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

九月くがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら
九月くがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

十月じゅうがつさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくらいふはさくら

